

利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議
道路空間活用ワーキンググループ(第1回) 議事 要旨

1. 日時・場所

平成 27 年 8 月 18 日 (火) 15 時～17 時, 都庁第二本庁舎 10 階 213・214 会議室

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) ワーキンググループの位置づけと進め方
- (2) 論点 1 歩行者空間の創出
- (3) 論点 2 地域公共交通の改善
- (4) その他

4. 意見交換

[論点1 歩行者空間の創出]

村木主査 :

- ・道路空間活用では、長期に向けて道路空間のあり方を考えるということと、オリンピックに向けて短期的にしなくてはいけないことを、今考えておく必要がある。オリンピックは一瞬のゲームのイベントだが、その時に都市にどんなギフトがもらえることになるのか、それをよく考えていきたい。
- ・オリンピックに合わせて何かを行うというのが一番実施しやすく、一番進む。初めから無理かもしれない等は言わないほうがいい。
- ・時間がない中、他事業も進んでいく中で、早めに検討を進めていくとともに、タイムスケジュールを工夫しながら実現できる方法を検討をしていこう。
- ・理想形のサインを設定すると、観光客に対して質の高い空間が作れる。東京全体の質を高めるために各区市、みなさんで議論し、協力頂くといいのではと思う。
- ・短期的には 10 地区かもしれないが、それで終わる必要はなく、他地区にも波及する。
- ・オリンピックパーク内の仮施設と恒久的な施設とがあり、パーク内は暫定的な案内で、それ以外の一般市街地は恒久的なレジブルロンドンで整備している。棲み分けを明確にし、将来にわたり見やすいこと、質が高いこと、を考えていくことが大事。
- ・またどのような情報を載せるかという点は非常に重要。
- ・各行政の景観計画やサイン計画と本 WG との整合性を考えるのは非常に重要ポイント。

新宿区都市計画部副参事 :

- ・新宿通りのモール化については日曜日に開催している歩行者天国を拡大していくということではなく、地域に合った道路形態をこれから見出していくとともに、地元と共にシンボル通りとして魅力を発信し、ブランド化していきたい。

渋谷区土木清掃部管理課長 :

- ・具体的にサイン計画を策定して実行しようという際に、財政的な支援策はあるのか。
- ・区長等の上のレベルでの合意も必要。

豊島区都市整備部拠点まちづくり担当課長 :

- ・このWGで何を決めるのか。
- ・レジブルロンドンはロンドン全体が統一されているからわかりやすい。区をまたいでサインを統一するのは難しい。誰かがリーダーシップをとる、またはある程度たたき台を出す等がないと何も決められないのではと危惧する。都がある程度のものを示すか、方向性だけでも示さないと進まない。

港区街づくり支援部土木計画担当課長：

- ・サインの統一化は対象地区のみか区全体なのか。
←対象地区のみと想定。(事務局)

立川市まちづくり部交通対策課長：

- ・多摩部及びオリ・パラ施設周辺でのランブリング東京の想定対象地区はあるか。
←次回WGで事務局案を提示予定。(事務局)
- ・立川市でもオープンカフェやコミュニティフォーラムといったにぎわいの創出が求められ協議を実施しており、ランブリング東京と合致。
- ・道路にオープンカフェやベンチを設置すると人は滞留し、路上生活者の問題も出てくる。歩行者動線を阻害せずに、どこでならオープンカフェができ、サインが置けるのかも、議論の中で検討しておくべき。
←科学的な分析手法も示して検討していきたい。(事務局)

八王子市拠点整備部中心市街地政策課長：

- ・歩行者空間はにぎわいの創出が第一。
- ・八王子市は平成29年に「全国都市緑化はちおうじフェア」を誘致しており、ユーロードをサブ会場として花と緑で演出する計画を進めている。連続したみどりの環境軸の創出の取組によって、ランブリング東京に位置づけられる可能性はあるか。
←人が回遊できる空間の創出が趣旨。緑の環境軸はランブリング東京の重要な要素。
- ・サインは景観の観点も含めてまとめていくのがよい。地図の更新を含め、メンテナンスの費用も考えなくてはならない。

警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長：

- ・サインについては標識等も含めて整合性をとっていただきたい。
- ・道路使用許可に際し、本来の機能を阻害していないか、ネットワーク化にあたっては歩行者動線の確保、荷捌きやそれ以外の車の迂回路など交通運用も考えていただきたい。歩行者天国はこれが原因で衰退。
- ・歩行者空間を作るにあたり、一部の人々の意見だけではなく、住民との合意を得て、区市町村といった公的機関がしっかりと関わらないと後々問題も出てくる。手引書のなかでもしっかり踏まえて頂きたい。

東京メトロ垂直移動設備整備協議担当課長：

- ・歩行者空間と駅とで表記内容の連続性を確保する観点も重要。またオリ・パラ大会後も見据え、普遍性のある表記内容とすべき。
- ・ランブリング東京では、歩行者空間を誰が使うのか、例えば自転車の扱いについても明確にしておくことが必要。歩行者空間では自転車は使わない方がよいと思う。

東京都港湾局臨海開発部開発整備課長：

- ・ローマ字での案内の言葉が、例えばゆりかもめや JR、都道等で異なる。デザインよりも言葉の統一といったものから考えていく必要があるのではないかと。

東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課長：

- ・大丸有地区でも担当者レベルでサインの整合をとる議論がなされているが、色々と高いハードルがある。少しずつできるところから調整し、全体構想が固まった段階で、街や駅、道路上でも統一性を持たせるようにしようとしている。

国土交通省都市局街路事業調整官：

- ・サインは、例えば丸の内や新宿駅南口など、既に検討が進んでいるところもあり時期がずれると共通化できない。行程をあわせ、できるところできないところの区分けは早めに行わないと混乱を招く。少なくともサインについては都が主導していくべき。

都市基盤部交通政策担当（事務局）：

- ・レジブルロンドンのように統一したサインを想定。
- ・サイン整備には、財政的支援も含めて検討していきたい。
- ・新宿区と共同事務局をしている新宿ターミナル協議会で、駅から一皮外までのサイン統一を検討している。区長や知事から街、にぎわいと連携も示唆されており、こちらとも密接に関係する。
- ・サインをつくるのが目的ではなく、歩行者主体の交流空間等の創出が目的で、こうした動きを進めることが本旨。ニーズ等がある地区を共通のサイン等で回遊性等を高め、賑わいを創出する。地区選定は、そういったニーズがあり、進めていきたいという思いがあるところをしたい。
- ・現場の担当者の方のお考えが一番重要だと思っている。
- ・歩行者と自転車の混在は非常に悩ましい問題。ルール、マナーも絡む。
- ・歩行者空間の利用者は、サインは初めての来街者が中心だが、回遊性や滞留、賑わいは近距離に住んでいる方も対象。

[論点2 地域公共交通の改善]

渋谷区土木清掃部管理課長：

- ・現場にいと、地区交通マネジメントでは「駐める」の苦情が多いためこの理屈が一番重要。
←非常に大切な問題だということは認識している。検討していきたい。（事務局）

警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長：

- ・自転車利用の実態調査について、ルールやマナーの認知度、実際にどこを走ろうと意識しているかの両方についてアンケート調査をすることで、今後改善すべきことがわかる。
- ・「駐める」に関連し、各交通モード間の乗り換えポイントを位置づけることが重要。これにより今後整備を進めるにあたり、それぞれがどのような対策をすればよいのか考えられるようになる。「走る」だけでなく、「駐める」ところも位置づけることで、区市町村も交通管理者も対応が明確になる。
- ・最初は小さい地区交通マネジメントなのかもしれないが、全体の中で位置づけることで長期的にまちづくりが進んでいくことになる。

東京都青少年・治安対策本部交通安全課長：

- ・死亡につながるような自転車事故が増加している。国の調査では、ルールは知っているが守っ

ていないという人が大半という調査結果がある。本調査で意識面の実態が確認できたら運用面の課題が見える。

- ・毎年、区市町村に協力頂き、駅前放置自転車の実態調査をしており、情報は提供できる。

東京都交通局総務部企画調整課長：

- ・モデル地区の範囲の想定はどれくらいか。また区市でもたれている地域公共交通会議等との整合性の考慮も必要。

←モデル地区の範囲は地域の事情により変わってくると想定。

東京メトロ垂直移動設備整備協議担当課長：

- ・地下鉄は駅間距離が短い、より短い距離を担う交通機関として自転車が交通体系に位置付けられれば連携もしやすくなる。短距離利用を想定したコミュニティサイクルであれば、例えばポート数を増やすなどの形での連携が可能となるかもしれない。

国土交通省都市局街路事業調整官：

- ・駐車場政策を交通マネジメントに組み込んでいる都市は国内外含め殆どないが、重要なので本WGでしっかり対応してもらいたい。
- ・地区交通マネジメントはモデル地区選定の際には、目的や内容、地形などに偏りが無いよう考慮したほうがよい。
- ・自転車は、シェアサイクルぐらいしか計画に組込めないのではないか。
- ・シェアサイクルについては、これを機にGPSによる移動データ含め、実態データを事業者からしっかりと出させて貰いたい。

都市基盤部交通政策担当（事務局）：

- ・地区交通マネジメントでもモデルとして10地区程度の選定を考えている。これはランブリング東京の10地区と重なるところも出てくると想定。
- ・自転車利用は、現在最も利用されている場所・形態の利便性を向上高めることがポイントと考えているため、利用実態を把握する調査を実施する。

[その他]

- ・次回WGは10月～11月に開催予定。

以上

利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議
道路空間活用ワーキンググループ(第1回) 出席者名簿

	役 職 名	備 考
主 査	村木 美貴 千葉大学大学院工学研究科教授	
委 員	東京都政策企画局調整部技術政策担当課長	代理
委 員	東京都青少年・治安対策本部総合対策部交通安全課長	
委 員	東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課長	代理
委 員	東京都都市整備局都市基盤部交通政策担当課長	
委 員	東京都環境局地球環境エネルギー部環境都市づくり課長	
委 員	東京都建設局道路管理部安全施設課長	
委 員	東京都港湾局港湾経営部経営課長	
委 員	東京都港湾局臨海開発部開発整備課長	
委 員	東京都港湾局臨海開発部開発調整担当課長	
委 員	東京都交通局総務部企画調整課長	
委 員	警視庁交通部交通規制課都市交通管理室長	
委 員	千代田区環境まちづくり部麹町地域まちづくり課長	代理
委 員	中央区環境土木部環境政策課長	代理
委 員	港区街づくり支援部土木計画担当課長	
委 員	新宿区都市計画部副参事(新宿駅周辺整備担当)	
委 員	新宿区みどり土木部道路課長	
委 員	江東区都市整備部まちづくり推進課長	代理
委 員	渋谷区土木清掃部管理課長	
委 員	豊島区都市整備部拠点まちづくり担当課長	
委 員	八王子市拠点整備部中心市街地政策課長	
委 員	八王子市拠点整備部中心市街地整備推進課長	
委 員	立川市まちづくり部交通対策課長	代理
委 員	奥多摩町企画財政課長	欠席
委 員	東京地下鉄株式会社鉄道本部改良建設部垂直移動設備整備協議担当課長	
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	